

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2490400021
法人名	k&kサポート(株)
事業所名	うさぎ亀山 グループホーム
所在地 (電話番号)	亀山市川合町字照田159 (電話) 0595-84-0550
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成20年11月13日(木)

【情報提供票より】 (H20年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4)利用者の概要(10 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2		2 名	
要介護3		5 名	要介護4		2 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	84.4 歳	最低	79 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	平井ファミリークリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南に面した丘陵地で、さわやかな風と日差しで明るい自然の豊かさを感じる施設である。開設3年目を迎え、更なる質の向上に前向きで慈愛に充ちた介護者の元気な言葉かけや介護実践で、ゆったりとした生活が営まれている様子が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価での意義・目的をよく理解して改善課題について積極的に話し合い・検討を進め、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員全体で作成にあたり、評価の意義を理解するとともに、介護の質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営会議の開催に努力をしているものの、出席メンバーの都合や積極的な参加が得られず、有効な会議として運営されていない。施設の質的向上の為に有効な会議と家族や地域が意識できる運営を模索している。定期的な運営推進会議開催への努力が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意向や意見を把握するために、アンケートを工夫したり、ご意見箱の利用を進めるなどのほか、月1回の施設便りに利用者の暮らしぶりや健康状態を記載したりと努力をしている。又現在、家族会の設立を計画中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買い物、自治会活動に参加し、積極的にすることで地域との関係作りを意識的に取り入れている。2つの自治会に加入していて、サークル活動などで施設を利用したいと地域から声があり検討を進めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人権と尊厳を大切にした介護」を理念とし、その人らしい暮らしの実現を目指している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング・ケース会議・介護実践の場で絶えず確認され理念の意味を共有している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	できる限り散歩などで地域に出かけるようにしている。現在2か所の自治会に加入し、地域の行事・施設の夏祭りに誘い合っている。地域との連携を図っている。	○	地域のサークルから施設の利用を依頼されている。施設のホールを利用してもらい施設と地域・利用者と地域の人との付き合いを計画中であるとのことで期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義をよく理解し、自己評価作成については職員全体で関わり、外部評価の結果は全員に報告するとともに、改善点など真摯に受け止め改善に努力している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の出席メンバーの都合で定期的な開催に至っていない。定期的な会議の開催と多くの関係者の出席で意義ある会議が開催されるように検討を進めている。	○	地域の関係者や行政の担当者の出席で、より質の高い運営推進会議の定期的な開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主として地域の社会福祉協議会や地域包括支援センター・広域連合会との連携で情報の交換や指導を受けている。	○	市町行政担当者との情報交換や連携を進めていく努力が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月うさぎ亀山便りを送っていくように努力している。たよりの中に利用者個人の健康状態など記載して報告している。	○	月1回うさぎ便り発行と、個人の健康状態などの報告が定期的になされる努力を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の有効利用、家族会設立を積極的に進め、家族の施設についての意見や意向を把握し、改善に反映していく努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は今年度もなく、利用者へのダメージはないと感じている。人対人の関係でダメージを受けないように、日頃から配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルや業務担当などに合わせて、社会福祉協議会や三重県グループホーム連絡協議会主催の研修会に積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会や広域連合・社会福祉協議会と同業者としての交流が頻繁にある。そこで得られた情報や研修で得たことを質の向上に役立てている。	○	地域の同業者との付き合いを積極的に進めることが、更なる努力として期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所の制度はないが、新入所者が馴染める入所になるように、家族同伴の見学・担当者との面接・入所中の利用者との関係作りに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしい暮らしを共に過ごすことで、人生の先輩として教えられることが多い。教えられたりその人の意向を把握することで、喜怒哀楽を共に感じる関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケートや共に暮らす中で、その人の思いや意見を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートや本人の状況から適切な計画が作成されるように努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録から受け持ちが計画の見直し案を提出し、ミーティング・ケース会議で検討し計画の見直しを実施している。	○	最低でも3ヶ月に1回の見直しを行うよう努力が望まれる。又、見直しについての家族の意見や意向の聞き取り、計画作成後の報告には十分な配慮が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設デイサービスとの自然な交流や外へ散歩・買物・外出支援を柔軟かつ積極的に実施している。ホールの掲示板に、伊勢神宮・二見浦への小旅行スナップが張り付けてあり、利用者に話しかけると嬉しい様子を話してくれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が内科医で2週に1回の回診を受けている。専門医への受診にも家族と話し合って対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応は、話し合いによってはひき受ける用意がある。その人にとってここが生活の場であると感じている人は、最後まで面倒をみて行く考えである。	○	重度化や終末期の対応について、現在広域連合で書類作りを進めている。入所当初から家族や医師との話し合いをしておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護実践の場では、プライバシー侵害にならない十分な配慮がされている。又個人に関する記録類は事務室に保管されている等、必要以外の情報の漏れに配慮した管理がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員や施設の都合で支援や介護の提供をするのではなく、あくまでも利用者本位の意向に任せたペースで暮らせる支援を提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒にテーブルで食事し、楽しく食べられる雰囲気づくりに配慮し、準備から後片付けまで職員と一緒に食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って、時間帯や曜日を決めず対応している。ほとんどの人は、午後に入浴をする。器械浴が必要な利用者は、デイサービスの浴室を利用して入浴介護を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の能力に合わせ、掃除・洗濯干し・食事の後片付けなどや趣味の園芸や手芸を楽しむことができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候などの条件が良ければできる限り外に出る支援をしている。行く先はまちまちであるができる限り個別な対応を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかける弊害を理解しており、玄関はもとより共有スペース、居室、庭園へと自由に入出りできる管理を実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火・避難訓練を実施している。夜間を想定した避難訓練の実施を計画中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設(デイサービス)の調理師の指導のもとに毎日の朝食・夕食を調理し、栄養の摂取量や水分補給をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいホール・広い廊下が過ごしやすい共用スペースとして設けられている。殊に玄関から風除け室を経て直接入れるホールの広さは明るくて開放感がある。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設側の用意したベット・衣類ダンス以外は、各利用者が持ち込んだ仏壇・テレビ・写真があり、部屋毎に利用者の意向が感じられるプライバシールームの様相があり、リラックスできる空間になっている。		